ＬＭＥ概況

（日刊産業新聞 外電モーニングコール）（12 月 16 日入電）

Copper

昨日までは原油先物相場の下げが止まらず、エネルギー株が大きく下落したことに加え、先週の米サード・アベニュー・マネジメントが運用する７億8850万ドル規模のジャンク債投資信託とストーン・ライオン・キャピタルの４億ドル規模のヘッジファンドに続き、高利回りクレジットファンドを運用する英国ルシダス・キャピタル・パートナーズも、投資ポートフォリオ全てを清算。9億ドル（約1090億円）相当の運用資産を来月顧客に返還する計画を公表する。14日の欧州クレジット市場では一段の損失への懸念が広がり債券リスクが急上昇。昨日まで原油先物相場は大幅に7日続落し、WTI期近物は一時１バレル$34.54まで売られる。また、VIX指数（恐怖指数）は昨日14日に一時25.27（前日比で約27%高）まで上昇するなど、市場参加者の間では、急激に下値不安が高まっていることを示す。ただし、米国は12月第3金曜日が、ストック・オプション、株価指数オプション、株価指数先物、個別銘柄先物の満期日が重なる清算日となることから、今週末さえ過ぎれば米国市場は、ほぼ完全にクリスマス休暇入りする見通しのため、ボラティリティーの上昇イコール不安定な相場は、ひとまず今週がピークとの見方。更には、米ジャンク（高リスク・高利回り）債の急落を受け、市場の沈静化を促さざるを得ないイエレンFRB議長が、将来の利上げプロセスが緩やかになることを明言する必要に迫られるとの思惑も台頭。15、16日のFOMCの声明後、米利上げが緩やかで小幅になると投資家がある程度確信すれば、市場全般も沈静化する可能性があるとの見方が拡がる。FRBが利上げプロセスを急がないと表明する可能性を反映し、ロンドン早朝の外為市場では、ドルが対ユーロで1.1059まで反落。加えて本日の原油先物市場は、値ごろ感の買いにより、終日反発基調となる。ユーロ強含みと原油先物の反発を手掛りに、銅もアジア時間帯からロンドン午前中に掛けては$4600台で推移。一方、市場全般に買い安心感が強まるに連れ、相対的に安全資産とされる円が売られると同時にユーロは反対に対ドルで軟調となり、ユーロはロンドン午後に1.1を割り込み、LME引け際には1.093前後へと水準を切り下げる。原油先物の反発や欧州株式の上昇を受け、銅は午後のリング序盤までは$4620前後を維持。ただ、その後ユーロが1.1の節目を割り込んで下げ幅を拡大すると、銅は午後のリング取引が進むに従い$4600割れから、本日安値の$4544まで下値を試す。本日の米NYダウは、オープニングから前日比で約$120強反発してスタート。ただ、軟調となったユーロが引け際まで銅の上値を重くし、終値$4565と、本日の安値から大きく反発出来ないまま取引を終える。

Aluminium

欧州株式市場は６営業日ぶりに上昇し、指標のStoxx欧州600指数は10月５日以来の大幅高となる。米経済はおよそ10年ぶりの利上げを乗り切るのに十分な力強さを持つとの見方が拡がったとされ、加えて原油先物が早朝から反発基調となったことを受けて、エネルギー銘柄が大幅に上昇。仏トタルと英蘭系ロイヤル・ダッチ・シェルなどが大きく買われる。更には、欧州自動車工業会ACEAがこの日発表した11月の欧州新車販売台数が前年同月比14%増となったことを手掛かりに、自動車関連株も上昇。スイスの資源大手Glencoreは、一時前日比で約3%上昇。JPモルガンのアナリストは、Glencoreの最新戦略は「信頼し得る」と推奨する。Stoxx600指数は月初来では依然6.7%下げており、12月としては2002年以来最悪のパフォーマンスとなる可能性が濃厚ながら、欧州株式と午前中のユーロ上昇を手掛りに、アルミも午前のリング前には$1489まで戻りを試す。ただ、市場全般に買い安心感が強まると、かえってユーロは対ドルで軟化し、午後には節目となる1.1を割り込み始める。ユーロが軟調な値動きに転ずるや、アルミも伸び悩みから小幅反落。午後も引き続き欧米株式の上昇が下値を支えるが、アルミは引け際に$1471まで値を消してしまう。

Nickel

昨日まで原油先物相場は大幅に7日続落し、WTI期近物は一時１バレル$34.54まで売られる。また、VIX指数（恐怖指数）は昨日14日に一時25.27（前日比で約27%高）まで上昇するなど、米投資家の間では、急激に下値不安が高まっていることを示す。ただし、米国は12月第3金曜日が、ストック・オプション、株価指数オプション、株価指数先物、個別銘柄先物の満期日が重なる清算日となることから、今週末さえ過ぎれば米国市場は、ほぼ完全にクリスマス休暇入りする見通しのため、ボラティリティーの上昇イコール不安定な相場は、ひとまず今週がピークとの見方。更には、米ジャンク（高リスク・高利回り）債の急落を受け、市場の沈静化を促さざるを得ないイエレンFRB議長が、将来の利上げプロセスが緩やかになることを明言する必要に迫られるとの思惑も強まる。本日は、早朝から原油先物が反発基調となり、WTI期近物はロンドン午後に$37台後半へと反発。加えてVIX指数も21.05前後へと低下し、少なくとも昨日までのような狼狽売りは沈静化する。欧州株式市場やユーロ高を手掛りに、ニッケルも午前中は$8700前後を維持。しかし、午後に入り、ユーロが節目となる1.1を割り込むや、ニッケルも$8700を完全に割り込み、更に$8600割れへと下げ幅を拡げる。本日の米NYダウは、オープニングから前日比で約$120強反発してスタート。ただ、軟調となったユーロが引け際までニッケルの上値を重くし、引け際には$8550へと更に気配値を切り下げたままクローズする。

Zinc

中国株式市場で上海総合指数が小幅下落。ただ、中国共産党が政治局の会議で不動産市場を安定化させると明言したことから、不動産開発株は買われる。上海総合指数は前日比0.3%安の3510.35で終了。不動産株の上げるものが目立ったとされ、保利房地産集団が1.3%高、上場企業としては不動産開発で中国最大手の万科企業が深圳市場で5%上昇する。一方で、中国共産党は政治局会議で在庫削減に向けた対策を求めたとされ、業種別では前日上昇が目立った素材と証券株が下落する。上海での素材株全般の下げを反映し、亜鉛は総じて軟調に推移。ロンドン早朝のユーロ強含みにも反応を見せず、午前のリング前には昨日の安値$1534.5を割り込み始める。午後には更にユーロも対ドルで1.1割れへと反落。ユーロが軟調となるに従い亜鉛は一段と調整色を強め、引け際には先週の戻りを帳消しとする$1504へと売り込まれていく。

Tin

早朝まではユーロが強含みとなっていたことを受け、錫も午前中は$14700前後を維持。しかし、午後に入り、ユーロが節目となる1.1を割り込むや、錫も$14600を割り込み、更に$14540へと下げ幅を拡げる。本日の米NYダウは、オープニングから前日比で約$120強反発してスタート。ただ、軟調となったユーロが引け際まで上値を重くし、引け際に辛うじて$14600へと戻した程度に収まる。

Lead

上海での素材株全般の下げを反映し、鉛も総じて上値の重い展開となる。午後にはユーロが対ドルで1.1割れへと反落。ユーロが軟調となるに従い、鉛は利食い売りが先行。引け際には3営業日ぶりに、一時$1700を割り込んでしまう。